

不要な刺股活用して

仙 台

県遊技業協組、幼稚園に寄贈

不審者の侵入対策に役立ててもらおうと、県遊技業協同組合（仙台市青葉区）は18日、防犯用の刺股1本



新井理事長（右）に刺股を寄贈する荘司理事長

をふくだまち幼稚園（宮城野区）に寄贈した。

刺股は長さ約1メートル70センチのアルミ製。不審者の足元を狙って突き出すタイプで、先端のワイヤが当たるとアームが閉じて足を挟み込み、相手を制圧できる。価格は1本約3万円。

刺股は県内のパチンコ店で強盗対策などに活用されていたが、閉店などで20本ほどが不要になった。組合が日本防災通信協会支部（多賀城市）を通して幼児施設に希望を募ったところ、ふくだまち幼稚園を含む12施設が手を挙げた。今月上旬から順次配布している。

ふくだまち幼稚園は、2021年に登米市豊里町の認定こども園に刃物を持った男が侵入した事件を機に防犯対策を強化してきた。運営法人の荘司宏人理事長は「教職員の大半が女性のため、不審者侵入にどのように対応するかが課題だった。防犯対策に役立てたい」と感謝した。

組合の新井清浩理事長は「社会的弱者を狙った犯罪が増えている。子どもや先生の安全を守るために活用してほしい」と話した。